



公衆衛生推進委員だより

編集 発行 特定非営利活動法人 広島市公衆衛生推進協議会 広報委員会 委員長 宮尾 英夫
 広島市中区富士見町 11-27 TEL&FAX 082-243-7400
 E-mail : koueikyou@y5.dion.ne.jp http://www.koueikyo.org/

❖ ごあいさつ ❖



広島市公衆衛生推進協議会
 会長 鉄村 忠基
 (佐伯区五日市中央学区会長)

昨年4月の就任より2年目の会長職を継続させて頂いております鉄村忠基でございます。今年も各区会長を始め、各学区（地区）会長、公衆衛生推進委員の皆様のご協力のもと、広島市公衆衛生推進協議会がより一層活性化するように尽力してまいり所存でございますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、皆様ご承知のとおり、本協議会の活動は、「公衆衛生募金」により賄われております。皆様のご理解とご協力により、熱心な募金活動を行っていただいているところではございますが、その募金収入は年々減少しております。

改めて申し上げるまでもなく、この公衆衛生募金の約6割は、学区配分金や各種事業助成金として、各学区（地区）の活動財源となっておりますことをご理解いただき、より一層、募金活動にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、昨今の新型コロナウイルス感染症の収束も見えず、本協議会及び各学区（地区）の事業活動に多大な影響を与えておりますが、皆様方には活動の規模を縮小するなど、様々な工夫をいただきながらも継続して実施いただくなど、大変なご苦勞をおかけしております。

今後も、感染対策に十分ご配慮いただきながら、引き続き公衆衛生活動にご尽力いただきますよう、お願いいたします。

終わりに、各区会長、各学区（地区）会長及び公衆衛生推進委員の皆様と一丸となって、様々な困難を乗り越えていきたいと思っておりますので、本協議会の運営に格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

❖ 種から育てた鉢花、全世帯へ 矢野花ボランティア ❖ (花いっぱい運動の推進)

安芸区矢野地区公衆衛生推進協議会 会長 宮尾 英夫

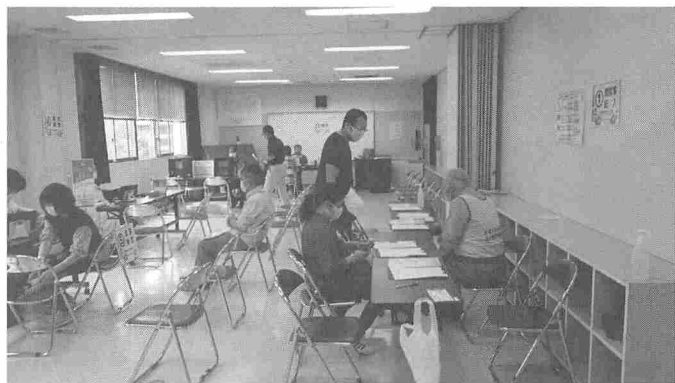
矢野地区では、花づくりに強い関心を持ち、花を愛する地域住民で組織する矢野花ボランティア（会長：肥塚義雄氏）の協力を得て、矢野公民館、社会福祉センター、安芸区矢野出張所、各保育園など町内14の公共施設にネモフィラ、ビオラ、ナデシコ、カンパネラなど、四季それぞれの花を届けています。その一方、8年ほど前から、鉢あげから育成管理した鉢花を町民に無料配布し、一般家庭も花で飾ってもらう運動を進めており、これまでに矢野公民館前で町民に手渡した鉢花は実に6,000世帯余りにのぼり、現在配った鉢花は2周目に入っています。肥塚会長は「各種花種を畑地で育て、小型鉢花に仕立てることから、費用も少々で済み、色彩豊かな花が生まれます。これも公衛協の助成のお陰です。」と喜んでいました。今後も矢野地区を花できれいに彩り、訪れる人が素敵な気持ちになれる町を目指したいと思っております。



(写真はネモフィラ、ビオラ、ナデシコ、カンパネラと4種の苗を手入れする会員)

❖ 2022コロナ禍での献血推進活動 ❖

安佐北区倉掛学区公衆衛生推進協議会 会長 山谷 元 宏



倉掛学区は広島市内中心部から北東に位置し、昭和50年代にかけて開発された大型団地の中にあり、バスセンターから45分の通称「高陽C団地」が当学区です。団地も高齢化が進み献血可能人口が減っているのが悩みです。

昨年はコロナ禍のなかで10月に実施し、近年にはない56の方が献血されました。今年のスローガンは「昨年を超える」をモットーに、昨年の成功例を踏まえ、今年も実行を試みたところです。特に倉掛小学校や倉掛小学校PTA、倉掛公民館が発行する便りに大々的に掲載していただくとともに、PTA会長さんによる勧誘メール作戦や倉掛小学校教頭先生にPTAの方への献血パンフレットの配布をお願いし、また、倉掛学区の自治会にも各戸にパンフレット配布を依頼しました。

コロナ禍での献血推進活動では、推進委員11名で団地内の新築住宅を中心に的を絞り、献血推進作戦を実施いたしました。令和4年5月15日（日）の倉掛公民館での実施結果としては、昨年を超える58人の方に献血にご協力頂きました。当日倉掛公民館館長より、「ホームページに献血の事を早速掲載しました。」とご報告頂き、推進委員一同、感謝感激でいっぱいでした。来年も今年を超える献血推進に邁進する事を強くおもいつつ、献血された皆さまと献血推進にご助力賜りました皆さまに、心よりお礼申し上げます。

❖ 社会奉仕の日で町内一斉清掃 ❖

南区翠町学区公衆衛生推進協議会 会長 宮 前 實 美

まず私たちの町の、公衆衛生推進協議会について説明します。町内で6人の人が会員として選ばれています。皆さんかなりの老人です。それでも、活動するときは一生懸命していただきます。とても有り難く感謝しています。

さて、社会奉仕の日ということで、町内一斉清掃をすることになりました。この行事は毎年行うもので、会員の人と老人会の方が集まって掃除をします。町内を2つに分けて、活動する人も半分に分けて行います。道路は毎日の生活の場であり、門前清掃などが、行われていて綺麗です。道路脇のグリーンベルトなどに落ちている煙草の吸殻などを集めます。

そして、ごみのある場所は、誰も居ない住居のうしろや駐車場の周りです。掃除するのはそういった場所で、見て回り清掃をしますが、大変なのは草取りです。手に余るものは撤去できませんが、この時期だけは皆さん頑張って綺麗にしてください。最後にそのごみは、集会所に持ってきて、もう一度ごみ袋の中身を整理します。今年は朝9時から28人の人が参加してくださいました。

掃除が終わった後、集会所で健康教室を開きました。講師の先生の言葉に首を振って頷いておられる光景が沢山ありました。このような行事として、毎年の町内一斉清掃を行っています。



❖ 太田川河川敷清掃について ❖

西区福島地区公衆衛生推進協議会 会長 山 肩 俊 彦

私の地区にある太田川河川敷は、普段、地域の皆さんの散歩コース、ジョギングコースとして利用されているところですが、ひとたび雨が降り水位が増すと、上流等から流れてきたごみが、河川敷にたくさん滞留してしまいます。

福島地区公衛協では、地区の清掃活動の一環として、こうした河川敷に流れ着いたごみの回収に努め、皆さんが気持ちよく河川敷を利用できるよう、日々努めています。

流れ着くごみは、空き缶、空きびんのほか、プラスチック製のペットボトルや中には大きな発泡スチロールの塊などもあります。

また、こうしたごみは河川敷の砂地にあるものであれば比較的容易に回収できますが、茂った葦の中に入り込んでしまうとその回収には非常に手間がかかり、大変苦勞しているところです。

一方、こうしたごみも回収できる河川敷などに流れ着けばまだ良い方で、中には回収されることなく、海まで流れ出てしまう場合もあると思います。

特に、プラスチックごみは、紫外線等の影響で小さなプラスチックに破碎され、いつまでも海中にとどまることになってしまいます。

そうしたことにならないように、私たちは普段の生活でごみを減らす努力を続けたいといけませんし、清掃活動を実践していかなければならないと痛感しています。

今後も公衛協としては、清掃活動を継続し、少しでも海へごみが流れつかないようにしていきたいと思います。いつも活動にご協力いただいている皆様に、心より感謝申し上げます。



❖ 地域活動について ❖

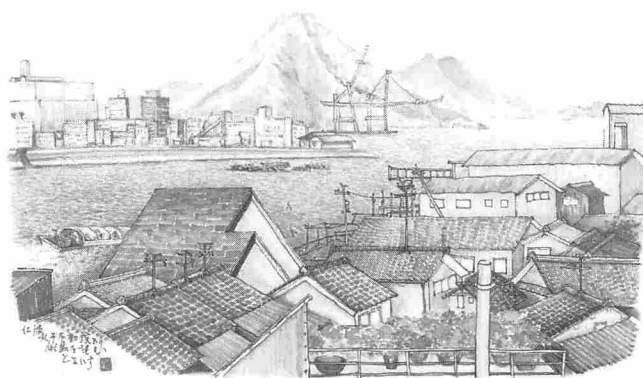
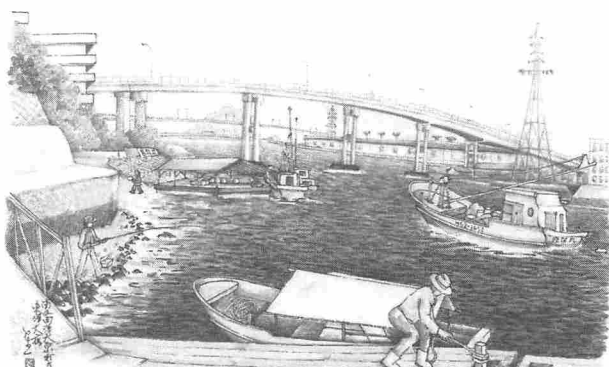
安佐南区東野学区公衆衛生推進協議会 会長 久 保 定 章

地域活動に日々ご活躍のこととお喜び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、当学区ではほとんどの活動が開催できず、色々検討しておりますがほとんど中止となったのが現状です。

こうした中でも、毎年6月及び12月に実施している地域一斉清掃活動については、なんとか実施しているところです。この活動は密を避けながら、地域清掃活動に参加することにより、自分たちが住む地域が自分たちの手によりきれいになっていくのを感じていただき、さらに快適な生活を送ることができます。

今年度に入ってから、5月末に献血協力事業も開催することができましたが、コロナ禍の中、地域運動会やまつり等の数々の行事が中止せざるを得ない現状に、各学区（地区）でも色々ご検討、ご心配のこと拝察いたします。皆様方の更なるご活躍を祈念いたします。



※市公衛協へ寄贈のイラストより

❖ あとがき ❖

広報委員長 宮 尾 英 夫

今年度から成人年齢が18歳に引き下げられ、新たに大人の仲間入りを果たした新成人は広島市で2万4千人、全国では240万人を数えます。これらの若者の1人でも、都市美化運動、環境、衛生、ごみ対策推進事業などを進めているわが公衛協の社会奉仕作業に積極的に参加することによって、きれいで明るいまちづくりや奉仕精神、さらに自立心が芽生え、健康な若者のスタートになりはしないだろうか。

したがって、公衛協139学区(地区)から、それぞれ知り合いの新成人数人に参加を呼びかけて、平和記念公園の一斉清掃、ごみゼロ・クリーンキャンペーンなどに携わってもらい、社会貢献を人生の指針にいただければ幸いと思うのですが、いかがでしょうか。

今回もたくさんの学区(地区)公衛協の会長の皆様に寄稿して頂きました、ありがとうございました。